

平成19年度

## 豊科地域審議会 まとめ

平成20年3月28日

豊 科 地 域 審 議 会

## 【目 次】

はじめに -----P 1

平成 19 年度豊科地域審議会開催状況 -----P 2

豊科地域審議会委員名簿 -----P 3

審議課題 土地利用制度について -----P 4

審議課題 本庁舎等の建設検討について -----P 7

審議課題 公共交通システムについて -----P10

審議課題 交流学習センターについて -----P13

審議課題 安曇野赤十字病院について -----P15

## はじめに

新市発足 3 年が経過し、豊科地域審議会も昨年 4 月から第 2 期を迎えています。安曇野市の早期の一体化を望みつつ、様々な地域の課題について学習と審議を重ねています。

今まさに、「安曇野はひとつ」の目的に向かって努力が積み重ねられています。この積み重ねの先にこそ未来があり、そこから目をそらすことは、このまちの未来を捨てることになりかねません。今の大事な時期にあたり、私たち豊科地域審議会は、地域課題の一つひとつをしっかりと見つめることを大きな基軸としています。

審議に際しては、それぞれの課題に係わる検討会などの審議経過を踏まえ、可能な限り歩調を合わせ、また視点を同じにしながら、本年度は 9 回の審議会と 1 回の学習会を進めてきたところであります。

本報告にあたり、多くの課題の中で豊科地域において特に重要な地域課題として審議を進めてきた次の 5 項目について、それぞれ【地域課題としての経緯】【審議の状況】【総括と今後の方針】としてまとめ、ここに報告します。

- 審議課題 土地利用制度について
- 審議課題 本庁舎等の建設検討について
- 審議課題 公共交通システムについて
- 審議課題 豊科交流学習センターについて
- 審議課題 安曇野赤十字病院について

平成 20 年 3 月 28 日

安曇野市長 平林伊三郎 様

豊科地域審議会  
会 長 等々力秀和

## 平成 19 年度豊科地域審議会 開催状況

| 回 数   | 開催日       | 審 議 項 目                                                                                                                  | 備考 |
|-------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 第 1 回 | 4 月 27 日  | 交 付 式<br>議 題 市まちづくり計画について（事務局）<br>第 1 期経過報告（事務局）<br>地域審議会答申について（事務局）                                                     |    |
| 学習会   | 6 月 6 日   | 学 習 会 平成 19 年度市予算概要（財政課）<br>公共交通システムについて（囃委員）<br>市内視察 ハード事業 地域課題箇所                                                       |    |
| 第 2 回 | 7 月 26 日  | 議 題 土地利用制度について（都市計画課）<br>公共交通システムについて（企画政策課）<br>豊科交流学習センターについて（社会教育課）                                                    |    |
| 第 3 回 | 9 月 7 日   | 市内視察<br>議 題 豊岳荘 給食センター 豊科プール<br>安曇野赤十字病院建設支援について（会長）<br>総合計画について（会長）<br>公共交通システムについて（囃委員）                                |    |
| 第 4 回 | 10 月 4 日  | 議 題 土地利用制度について（都市計画課）<br>総合計画草案について（企画政策課）                                                                               |    |
| 第 5 回 | 11 月 8 日  | 議 題 本庁舎等建設検討について（副会長）<br>公共交通システムについて（囃委員）<br>土地利用制度について（都市計画課）                                                          |    |
| 第 6 回 | 11 月 27 日 | 区長会との意見交換会<br>課 題 公民館組織の改正について（社会教育課）<br>公共交通システムについて（囃委員）<br>本庁舎等建設検討について（会長）<br>地域の課題について                              |    |
| 第 7 回 | 1 月 29 日  | 学 習 会 市アウトソーシングに関する指針について<br>（行革推進室）<br>議 題 本庁舎等建設検討について（正副会長）<br>豊科交流学習センターについて（社会教育課）                                  |    |
| 第 8 回 | 2 月 29 日  | 学 習 会 豊科地域水道料金の改定について（上下水道部）<br>議 題 土地利用制度について（都市計画課）<br>公共交通システムについて（囃委員）<br>本庁舎等建設検討について（正副会長）<br>安曇野赤十字病院建設支援について（会長） |    |
| 第 9 回 | 3 月 10 日  | 議 題 地域審議会まとめ<br>意見交換（来年度に向けて）                                                                                            |    |

## 豊科地域審議会委員名簿

（平成 19 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

| 番号 | 役職    | 氏 名                       | 備 考                                       |
|----|-------|---------------------------|-------------------------------------------|
| 1  |       | あさかわ ふみよし<br>浅 川 文 彬      |                                           |
| 2  |       | お あ な つとむ<br>小 穴 力        |                                           |
| 3  |       | なかやま よ し こ<br>中 山 芳 子     |                                           |
| 4  |       | まるやま か つ こ<br>丸 山 勝 子     |                                           |
| 5  |       | さいとう まさあき<br>齊 藤 正 昭      |                                           |
| 6  |       | やまもと ひ ろ こ<br>山 本 紘 子     |                                           |
| 7  | 会 長   | と ど り き ひでかず<br>等 々 力 秀 和 | 安曇野赤十字病院建設検討委員会<br>総合計画審議会<br>本庁舎等建設検討委員会 |
| 8  |       | あかはね としあき<br>赤 羽 壽 秋      |                                           |
| 9  | 副 会 長 | あおやぎ か ず み<br>青 柳 和 水     |                                           |
| 10 |       | まつざわ ま さ こ<br>松 澤 雅 子     |                                           |
| 11 |       | お の てるたけ<br>小 野 照 武       |                                           |
| 12 |       | いわはら た か し<br>岩 原 高 志     |                                           |
| 13 |       | いまいずみ はじめ<br>今 泉 一        |                                           |
| 14 |       | なかじま え<br>中 島 こ ず 江       |                                           |
| 15 |       | もたい ゆういち<br>甕 裕 一         | 公共交通システム構築のための<br>検討会                     |

## 審議課題 土地利用制度について

### 【地域課題としての経緯】

平成 18 年 6 月 2 日「安曇野市総合計画基本構想に係わる地域課題と将来像について」の諮問を受け、平成 19 年 2 月 21 日「線引き制度」について答申をしています。

第 1 期豊科地域審議会として「安曇野市まちづくり計画」を研究・検討する中で、唯一豊科地域が持つ「線引き制度」について、線引き制度のメリットと存続する場合の課題と解決策 線引き制度のデメリットと解決策 をテーマに審議を重ね評価を行い答申としました。

#### （答申主旨）

旧豊科町において自然環境、景観、原風景の一番の要素である「農地」の保全は、農工業の均衡ある発展によって、「線引き制度」の長所を生かすことができたことが一番の要因であった。今後も農業施策の確立と工業の発展は必要不可欠であります。

「線引き制度」のデメリットも多く様々な検討が必要であるが、全市の土地利用を考える上で、「線引き制度」の意義と効果を十分研究いただき、自然環境や景観を損なわない統一した規制を望みます。

本答申をすることで、今後土地利用に関する各委員会及び次期豊科地域審議会において、審議の参考としていただくことを希望します。

第 2 期豊科地域審議会においては、前述の答申を踏まえながら、引き続き「土地利用制度」を重要な地域課題として位置づけています。

### 【審議の状況】

総合計画の主要施策にうたわれる「秩序あるまちづくりの推進」を基底に、市民検討委員会、専門委員会の検討内容を踏まえながら次のとおり審議を進めました。

#### ■ 第 2 回地域審議会：平成 19 年 7 月 26 日（学習会）

土地利用制度策定に向けての基本方針、検討経過、スケジュールについて都市計画課から説明を受けました。

#### 主な個別意見

- ・ 現在の市の土地利用に教育的視点が欠けているのではないか。
- ・ 現状で優良農地の開発へ疑問がある。
- ・ 市の土地利用制度の策定に際しての市民参加の方策と周知について。

- ・ 線引き地域として時間をかけて討論してきた。今後の地域審議会の焦点である。
- ・ 条例による規制の場合、線引き制度返上の進め方は。
- ・ 市街化区域の課税について。
- ・ 地下資源の保全について規制への取り込みを。

■ 第 4 回地域審議会：平成 19 年 10 月 4 日（審議）

専門委員会、市民検討委員会の検討経過について都市計画課から説明を受けました。

主な個別意見

- ・ 規制の検討に際し、住民協定や景観法の位置づけと反映を。
- ・ 5 地域への線引きについて、全市適用は難しい。
- ・ 都市計画法による線引き内の税の不公平について。
- ・ 穂高地域への線引きの可能性は。
- ・ 県の都市計画審議会では線引き廃止は問題あるとしている。豊科の線引き返上は難しいのではないか。
- ・ 生産緑地制度について。
- ・ 豊科の線引きか穂高の条例か、市民の意見を聞いて決定を。
- ・ 地区別懇談会について。

■ 第 5 回地域審議会：平成 19 年 11 月 8 日（審議）

専門委員会、市民検討委員会の検討経過について都市計画課から説明を受けました。

主な個別意見

- ・ 制度を最終的に詰める段階として重要な時期にある。
- ・ 線引きは確かにメリットもあるがデメリットも大きい。とにかく厳しすぎる。弾力性が必要。
- ・ 市民検討委員会と分科会で話し合われている 5 地域のイメージと内容。
- ・ 一般市民に理解しづらい面がある。
- ・ 市を担っていく子ども達はどう応えるか、教育委員会との連携を望む。
- ・ 条例か線引きか、その中間か。条例による制度の方向であると理解。

■ 第 8 回地域審議会：平成 20 年 2 月 29 日（審議）

専門委員会、市民検討委員会の検討経過について都市計画課から説明を受けました。

主な個別意見

- ・ 農業者が高齢化し後継者がいない状況であり、農業者への説明の検討を。制

度確立前の住宅乱立を危惧している。

- ・ 都市計画法 34 条の内容について。
- ・ 今までの豊科の線引きの規制より緩和されると理解してよいか。
- ・ 同じ市内に 2 つの制度があってはならない。一つの制度でいくよう努力を。
- ・ A 地域、C 地域でまちづくりについての違う方向が見える。
- ・ 3 月 18 日の提言の内容を見ながら、審議を続けていきたい。

## 【総括と今後の方針】

安曇野の財産である自然環境を守り後世に残していくためには、旧豊科町で進めてきた都市計画法による規制は効果のある施策であります。現実論として相当に厳しい私権の制約を伴う中で全市への適用は難しいと考えています。また、市内の無秩序ともいえる開発状況を見ると統一した規制制度の必要性を改めて痛感するところです。

昨年 11 月に実施された市民対象の地区別懇談会の参加状況からも、まだまだ関心が低い現状にあります。現在一番規制が厳しい豊科地域はともすれば関心が薄くなることが推察されますが、来年度はいよいよ新しいルールづくりへの最終段階を迎える中で、全市民が理解し納得できるようにお取り組みをお願いします。都市計画法による規制も条例による規制もあくまで方法論であり、市が目標とする「まちづくり」は一つでありますので、将来を見据えたしっかりとした土地利用計画の構築を望むとともに、新しいルールには「線引き制度」が持つ長所の趣旨も活かしていただき、1 日も早い実施を希望しています。

土地利用制度については、引き続き地域の課題として位置づけています。豊科地域審議会として、市民検討委員会の提言を尊重すると共に、今後も市所管課から新ルールへの検討経過などの説明を受けながら審議を進める中で、意見交換を通して新しいルールづくりへの参考にしていただくようお願いします。

## 審議課題 本庁舎等の建設検討について

### 【地域課題としての経緯】

安曇野地域合併協議会の第7回（平成16年12月14日）、第8回（平成17年1月13日）において「新市の事務所の位置」について協議されており、協議結果として新庁舎の位置の明記はありませんが、豊科地域をイメージしたものと解しています。

また、第1期豊科地域審議会として、平成19年2月21日総合計画の基本構想に係わる答申に併せ、「安曇野市庁舎について」と題し、利便性の高い豊科地域への早期建設を望む旨を【個別意見】として添付させていただきました。

第2期豊科地域審議会としても、前述の合併協議会の協議経過と第1期豊科地域審議会の取り組みを踏まえ、「本庁舎の建設」について重要な地域課題として位置づけています。

### 【審議の状況】

市の附属機関として「本庁舎等建設検討委員会」が設置されたのに伴い審議をスタートし、代表参加する委員に豊科地域審議会としての意見を委ねる形で可能な限り検討委員会と歩調を合わせながら審議を進めてきました。

また、新庁舎についての地域にある想いや考えを把握する一環として豊科地域区長会と意見交換会を実施し、忌憚の無い地域の意見を地域審議会に反映することが出来ました。

#### ■第5回地域審議会：平成19年11月8日（審議）

10月11日開催の第1回「本庁舎等建設検討委員会」の経過を参加委員から報告を受けました。

#### 主な個別意見

- ・ 新庁舎の必要性など、全く白紙から検討することには疑問がある。
- ・ 検討委員会では、本庁舎の必要性から始まりあらゆる意見を出していただく。
- ・ 合併協議の経過を守って進めていただきたい。
- ・ 分散型の庁舎体制は無駄が多い。早く一本化することが財政的にも重要。
- ・ 合併特例債の期限を考慮すると早く結論を出さなければいけない。
- ・ 長期的な財政シミュレーションを出して建設反対の方も納得できるように。
- ・ デメリットを解消する方向で検討を。タイムリミットもある中で建てる建てないの議論は安曇野市にとって何のメリットもない。
- ・ 合併の根本は行財政改革である。

■第6回地域審議会：平成19年11月27日（豊科地域区長会と意見交換会）

11月15日開催の第2回「本庁舎等建設検討委員会」の経過を参加委員から報告を受けました。

主な個別意見

- ・なるべく経費をかけないで、既存の施設の利用を。
- ・新庁舎は良いこと。税金をどう使うか予算などの説明が欲しい。
- ・行政改革や人件費削減の側面がある。迅速に庁舎を建てて実行を。
- ・地域エゴが強い。市がまとまるには新庁舎の建設を早期に。
- ・新庁舎は必要。支所はコンパクトに。
- ・条件からして豊科地域が最適と思う。
- ・職員の削減には反対。
- ・市民の新しいシンボルとして早期建設を望む。
- ・公共施設や公共交通を考慮して早期建設を。
- ・豊科には拘らず、経済的に建設を。
- ・豊科庁舎が一番古い。豊科に新庁舎があれば取り壊しても良い。
- ・合併協、研究会、地域審議会の経過は参考として提示されている。
- ・現在の分庁方式は効率性からマイナスで新庁舎は必要であるが、支所も大事である。
- ・特例債も借金、日赤や交流センターもあり後世に大きな負担をかけるのでしっかり検討をして進めてほしい。

■第7回地域審議会：平成20年1月29日（審議）

12月27日開催の第3回「本庁舎等建設検討委員会」の経過を参加委員から報告を受けました。

主な個別意見

- ・豊科庁舎は早急に建て替えが必要。豊科支所を本庁舎に附属させる建て方が良い。
- ・駐車場や避難所を考えると最低でも3ヘクタールは必要。
- ・検討委員会で、10万都市の庁舎の規模はどの位かなどの目標を持って検討いただきたい。
- ・当審議会でも昨年庁舎の場所について要望を出してある。利便性からして豊科が理想の場所であろう。
- ・支所の機能は大事だが、本庁が本当に機能を発揮しないと支所の役目も消滅してしまう。
- ・新庁舎の建設は至急に必要だが、数字的なものをしっかり出していただきたい。

- ・ 市民の意見をどう集約するかがポイントである。
- ・ 華美にお金を使わないように検討いただきたい。土地の取得も広ければ良いというものではない。

■ 第 8 回地域審議会：平成 20 年 2 月 29 日（審議）

2 月 15 日開催の第 4 回「本庁舎等建設検討委員会」の経過を参加委員から報告を受けました。

主な個別意見

- ・ 提言書素々案の建設場所の要件は、もっと具体的なものが望ましいのではないか。
- ・ 4 月に市長へ提言を予定している。その後第 2 次の検討組織により具体的な検討に入り、来年の早い時期には決まっていくのではないか。
- ・ 素々案 9 ページの内容であれば、ある程度場所の方向性は決まってくるのではないか。
- ・ 第 1 期で答申もしてあり、その方向で意見の集約をしていきたい。

【総括と今後の方針】

1 年間の審議結果を振り返り、また合併協議会の協議経過と第 1 期豊科地域審議会の取り組みを踏まえ、さらに合併特例債活用のタイムリミットもある中で、当地域審議会としては本庁舎の建設は必要であり、5 地域の一体化のために早急に取り組むべきであると考えます。

本庁舎等建設検討委員会が重ねられた検討内容に心から敬意を表します。今後予定される提言書については、建設場所の要件におきましても、公共施設や公共交通の利便性など一歩踏み込んだより具体的な提言を望んでおります。

総合支所のあり方については、昨年実施された総合支所に関する市民アンケートでも、現状への満足度は高い結果が出ております。本庁舎の規模に関して、支所の役割は重要であります。合併効果を最大限に発揮するためにも本庁舎へ可能な限り業務を集約していくことは不可欠であり、改革の実を上げていただくことを期待します。

今後、豊科地域審議会として経過を見守りながら重要な地域課題として審議を継続していきますので、基本構想の策定にあたりまして参考にさせていただくようお願いいたします。

## 審議課題 公共交通システムについて

### 【地域課題としての経緯】

豊科地域では、地域振興バス『ぐるまろくん』が平成 13 年 4 月から合併後約 2 年間地域住民の足として運行されてきました。平成 19 年 9 月から全市をあげて定時定路線とデマンド交通の試行運行が始まり、安曇野の新しい公共交通として期待するところがあります。同時に豊科地域としては大きな変革でもありましたので、地域の重要な課題として位置づけてまいりました。

豊科地域審議会では、平成 19 年 2 月 21 日「安曇野市総合計画基本構想に係わる地域課題・将来像について」の答申にあたり、公共交通システムについて当審議会委員の【個別意見】を付し、尊重されるよう要望しております。

### 【審議の状況】

第 2 期地域審議会においては、「安曇野地域における公共交通システム構築に関する検討会」に代表委員が参加する中、地域振興バス『ぐるまろくん』の経緯を踏まえ、大切な地域の課題として 6 回にわたり学習会と審議を重ねてきました。

また、第 6 回地域審議会には、豊科地域区長会との意見交換会を開催し、貴重な地域の皆さんの忌憚のない意見を審議会に反映することができました。

#### ■第 2 回地域審議会：平成 19 年 7 月 26 日（学習会）

地域公共交通試行運行案デマンド運行・定時定路線・財政シミュレーション、今後のスケジュールについて企画財政部企画政策課から資料に基づき説明を受けました。

##### 主な個別意見

- ・ 高齢化社会を迎え大変すばらしいシステムだが、内容について高齢者の皆さんが理解しやすい言葉で工夫をして P R を。
- ・ 共通エリアの境目が解りにくい。
- ・ 市民には非常に便利なシステムであるが、市外の方の利用も視野に入れてほしい。

#### ■第 3 回地域審議会：平成 19 年 9 月 7 日（審議）

検討会代表委員から資料に基づき安曇野地域における公共交通システム構築のための検討会の経過報告を受けました。

##### 主な個別意見

- ・ 共通エリアの範囲は、利用者の声を踏まえ、見直しをしてほしい。
- ・ 試行の検証も大きな要素になる。豊科地域審議会としても議題として検討会代表委員を中心に検討していく。

■ 第 4 回地域審議会：平成 19 年 10 月 4 日（審議）

検討会代表委員から資料に基づき運行状況の説明を受けました。

主な個別意見

- ・ 将来はデマンドを利用したい思いはある。定時定路線を利用したいが、停留所まで行くのが大変。
- ・ 昼の休憩時間は、交代制のシフトを敷けばうまく流れるのではないかな。

■ 第 5 回地域審議会：平成 19 年 11 月 8 日（審議）

検討会代表委員から10月18日開催「公共交通システム構築のための検討会」の経過を資料に基づき報告を受けました。

主な個別意見

- ・ 定時定路線について、アンケートのサンプル数12は統計的には意味が無い。もっとアピールする必要がある。
- ・ デマンドと定時定路線を混同して認識している方が非常に多い。定時定路線をアピールする必要がある。

■ 第 6 回地域審議会：平成 19 年 11 月 27 日（豊科地域区長会との意見交換）

検討会代表委員から「公共交通システム構築のための検討会」の経過を資料に基づき説明を受けました。

主な個別意見

- ・ 障害者への配慮が必要と感ずる。
- ・ 利用してみたが、迎えの時間や到着時刻に関し不便さを感じた。タクシー業界は悲鳴をあげているようだ。本質的なところから利用方法を含め検討が必要。登録者が少ないので、行政で積極的な掘り起こしが必要。
- ・ 始まったばかりではあるが登録数が少ない。詳しい利用方法など、住民に十分理解されていないのではないかな。
- ・ 料金について検討してほしい。

■ 第 8 回地域審議会：平成 20 年 2 月 29 日（審議）

最終の「公共交通システム構築のための検討会」のまとめとして、資料に基づき検討会代表委員から説明を受けました。

主な個別意見

- ・ 定時定路線の豊科、田沢の利用者が少ない。利便性を考えれば少なくとも運行するのか。PR 不足であればアピールし、活用度を増やす必要がある。
- ・ デマンドの登録者数を増やすために、公民館やお年寄りが集まる場所へポスターを貼るなど利用促進を図ってはどうか。
- ・ 運転手の休憩時間として一斉にシステムを停めることは、利用者を減らす要因になる。始業時間から終了時間まで運行すべき。
- ・ 乗り継ぎの効率が悪いので、改善してもらえれば、利用者を増やす大きな要因になると思う。
- ・ 導入前の財政シミュレーションに対して実際がどうか、修正点を検証していく必要があると思う。
- ・ 第 2 ステージに私たちの提言が活かされて、昼に 1 時間も待たされることの無いような方向を出してほしい。
- ・ システムの導入まではデマンドについて、アピールしていたが、試行運行が始

まり、やや手薄。随時受け付けていることを告知する必要があると思う。

- ・ 第2ステージでも検討していただき、継続して討論してきたことを踏まえ、これからも継続的に審議をしていければと思う。
- ・ 第2ステージに移るが、意見を集約しながら進めるということで安心している。脱石油型による、バイオディーゼルのことが新聞に載っていたが、世界的に考えると穀物が不足しているのが現状で、問題もある。10万都市でのシステムは安曇野市が最初であるため、専門家を交え決めてほしい。
- ・ ドイツでパークアンドライド制度により繁華街に入らず、車を郊外に置いてという都市も多い。この辺も専門家の意見を聞き、細かい配慮をしてほしい。
- ・ 公共交通活性化・再生総合事業は、新しい公共交通システムに限らず、豊科駅の周辺整備、JRに対する要望、空港までのアクセス、豊科インターの駐車場等既存のシステム等の事業費補助であるため、課題としてテーブルにあげても良いのでは。
- ・ このシステムがバイオディーゼルの方向に向かってもかまわないと思う。

### 【総括と今後の方針】

豊科地域審議会では、検討会に参加する代表委員に意見を委ねる形で検討会と歩調を合わせながら審議を進めてきました。『あづみん』を利用し、運転手の一斉休憩時間や共通エリアの見直し、高齢者への配慮、定時定路線の利用者確保など、実体験に基づいた数多くの意見が、審議会で交わされました。市民の利便性を高め利用者の拡大を目指す上で、今後の検証の参考にしていただきたいと思います。また、試行運行が半年経過する中で、よりきめ細かな市民への周知はもとより当初示された財政シミュレーションに対する検証が必要な時期であると考えます。

公共交通システムの本格運行に向け、検討会を経て「実証運行に伴う安曇野市地域公共交通協議会」の設立が予定されているところです。今後、「安曇野市地域公共交通総合連携計画」に基づき、公共交通の活性化を推進するにあたり、アンケートの分析結果や試行運行での検討課題を十分に検証していただきますようお願いします。

市民の側に立って、生活に密着した安曇野らしい公共交通網の確立に向け、観光面のみならず、世界的な重要課題である環境面にも配慮し、観光、環境、その他関係部門と連携をとりながら、誰もが利用しやすい公共交通体系が構築されることを望みます。

豊科地域審議会では、公共交通活性化・再生総合事業も加味し、代表委員に意見、要望を委ね、今後とも主要な課題として継続的に審議を重ねていきます。

## 審議課題

## 交流学习センターについて

### 【地域課題としての経緯】

豊科地域では、旧豊科町において豊科近代美術館に接続した図書館と交流センター及び近代美術館の補完的機能としてのギャラリーの整備計画を進めてきましたが、町村合併を見据えて財政的視点から長い間建設が見送られてきました。

第１期豊科地域審議会では、平成 18 年 6 月 2 日「安曇野市総合計画基本構想に係わる地域課題と将来像について」の諮問を受け、旧豊科町から長い間検討が重ねられ、地域が切望してきた交流学习センターを地域課題と捉え、積極的に審議を重ねました。

旧豊科町を始め 3 町村で計画された交流学习センター建設計画を継承し、安曇野市としての視点から各施設の位置づけや機能を見直すため設置された「安曇野市交流学习センター施設検討委員会」の報告書が平成 18 年 11 月 16 日市へ提出されています。当審議会では、同委員会からの検討報告を受けながら 6 回にわたり慎重に審議し、平成 19 年 2 月 21 日、安曇野市総合計画基本構想に係わる地域課題として答申しています。

### 【答申主旨】

「安曇野市交流学习センター施設検討委員会」報告書を尊重します。ただし、豊科交流学习センター建設場所の芝生については、市民の憩いの場として大切ではあるもののその保全にはこだわらず、美術館の外観にマッチし、かつ周辺の景観に配慮した建物となるよう要望します。

旧豊科町で進めてきた図書館施設を中心とした交流学习施設の整備計画の経過を踏まえ早期建設を要望します。

第２期豊科地域審議会においては、前述の答申を踏まえながら、引き続き「交流学习センター」を重要な地域課題として位置づけています。

### 【審議の状況】

第２期豊科地域審議会では、豊科交流学习センター基本構想図が完成したことを受け、基本構想図の詳細な内容と当審議会の答申書との整合性を確認しました。

しかしながら平成 19 年 6 月の建築基準法の改正に伴い、基本設計の見直しや建設への影響等について説明を受け審議を行いました。

■ 第2回地域審議会：平成19年7月26日（学習会）

豊科交流学習センターの検討経過、基本構想図について教育委員会社会教育課から資料に基づき説明を受けました。

主な個別意見

- ・ 市民ギャラリー、エレベーター、展示室等の入口が非常に狭いようだ、検討いただきたい。
- ・ 多目的交流ホール控室・ピアノ等の設備について。
- ・ 小屋裏倉庫は、可動式椅子の収納庫等利用できる。
- ・ 標準的な図書館基準に達するが安曇野市らしさ・特徴は。
- ・ ボランティアの具体的活用・施設の位置づけは。

■ 第7回地域審議会：平成20年1月29日（審議）

建築基準法改正に伴う豊科交流学習センター基本設計の見直しについて、教育委員会社会教育課から資料に基づき説明を受けました。

主な個別意見

- ・ 見直しは美術館企画展の計画等深刻な問題がある。基本設計について豊科では沢山議論してきた。これまでの計画の形で出来るよう最善の努力を尽くしてもらいたい。
- ・ 地域に図書館をという願い。近代美術館と共に文化ゾーンにと豊科住民の長年の夢である。
- ・ 他地域と比べてとても本を読める状態ではない。豊科の住民は我慢して利用している。計画した交流学習センターを一日も早く実現できるようにしていただきたい。
- ・ 美術館機能を補完する図書館、規模については3,000 m<sup>2</sup>以上で。美術館と離して入口を別にしても規模については縮小しないよう検討していただきたい。

【総括と今後の方針】

豊科交流学習センターには、図書館としての機能と共に安曇野市において基幹美術館として位置づけられる豊科近代美術館の補完的機能を果たします。

旧豊科町時代から慎重に審議・検討を重ねたこれまでの検討経過・要望を踏まえ、建築基準法改正にともなう基本設計の見直しの中においても、基本構想図に示された機能・規模・設備を著しく損なうことなく、早期に建設されることを望みます。

豊科地域審議会においては、今後、基本設計の見直しから建設にいたるまでの経過に注目し、継続的に審議を重ねていきます。

## 審議課題

## 安曇野赤十字病院について

### 【地域課題としての経緯】

安曇野赤十字病院については、昭和 23 年から 50 年以上にわたり安曇野地域の中核的医療機関として医療提供されてきました。とりわけ、豊科地域においては、身近な総合病院として信頼を寄せてきたところでもあります。病院の老朽化・狭隘化による移転新築・現地改築について、合併以前から議論されてきましたが、平成 17 年 5 月に現地建替えによる建設が表明されました。

豊科地域審議会では重要な地域課題に位置づけ、第 1 期地域審議会において「安曇野市総合計画基本構想に係わる地域課題・将来像について」の答申書に「安曇野赤十字病院建設支援について」当審議会委員の【個別意見】を付し、尊重されるよう要望してきました。

### 【審議の状況】

第 2 期地域審議会では、「安曇野赤十字病院建設支援検討委員会」に代表委員が参加する中、施設や地域医療の中核的な役割についての医療体制やサービスの向上、経営改善、財政的支援等について検討、審議してきました。

#### ■ 第 3 回地域審議会：平成 19 年 9 月 7 日（審議）

代表委員から、資料に基づき安曇野赤十字病院建設支援検討委員会の経過報告を受けました。

##### 主な個別意見

- ・ 基金を取り崩していると聞いている。経営も厳しい中で相当の余剰金が出るか疑問がある。長期借入金の償還について解りにくい。
- ・ 安曇野赤十字病院の経営は行政に依存しないと言う要望が出ている。経営審議会には会長がでておりチェック機関として非常に任務は大きい。公募委員を大勢入れるとか計画どおりにいかない場合はコンサルからみてもらうことは大事なことである。
- ・ 市民病院的な感覚と中身が充実して心の通う病院であってほしいと願う。
- ・ 待合室が全部つながっていると抵抗を感じる。安曇野赤十字病院は診療科ごとに区別をしてほしい。待合室は重病の方のための横になってリラックスできる椅子もほしい。
- ・ 建設しながら病院も維持していく中で患者確保のため、維持していくことは大変だと思うが努力をしてほしい。
- ・ 院長は医療の専門家で、経営には経営のプロを入れたほうが良い。
- ・ 高度な医療技術など大変期待されている。スタッフのコミュニケーションや確保も大きくかかわってくる。

#### ■ 第 8 回地域審議会：平成 20 年 2 月 29 日（審議）

代表委員から、資料に基づき安曇野赤十字病院建設支援検討委員会の経過報告1を受けました。

##### 主な個別意見

- ・ 5億円赤字の中で市民負担をする。建設後ではなく、建設段階で市民が何回か見ることができるようにすれば市民も納得する。
- ・ 建て替えるにあたり、赤字が累積した最大の原因分析が重要。一般的印象としては、高度医療について患者は他の病院を選び、安曇野赤十字病院に頼ることができない。安心した病院として核となるような医療の充実化、高度化を建設段階から意識することが重要である。患者が市外へ流失するのではなく安曇野市へ来るような病院であることが必要である。
- ・ 施設・設備の他に、診療窓口も会計窓口も順番待ちで、担当者がひとりの状態。窓口体制についても改善してほしい。
- ・ 以前は、日赤に行けばという安心感があった。産科の問題もあるが、医療機器が最新のものがあってもPR不足で施設が古く設備的に不安があるため他の病院を選ばざるを得ない。病院関係者は自信をもって核となるような病院となる気持ちで黒字を目指してもらいたい。応援している。
- ・ 特色ある診療として女性特待日のような、女性スタッフによる診療など考えてはどうか。
- ・ 市民病院としての役割となると、現地建て替えであれば、交通の便や、道路事情や街並みに不安がある。車イスやお年寄りが歩きやすくするなど、安曇野市としても病院周辺整備を考える必要がある。
- ・ ホスピス（終末期ケア）も重要なテーマ、しっかり検討して欲しい。安曇野市にも適切な施設がない。全国的にも少ない。今後重要な意味をもってくるしっかり検討して欲しい。
- ・ 計画では建設期間29ヶ月、リハビリに十分な施設の広さを確保できるか、他の施設を活用していく、そうしたことを市民が話し合える場所が必要である。

## 【総括と今後の方針】

安曇野赤十字病院には、安曇野市における公的医療機関の位置づけとして期待を寄せるところですが、私たち市民の貴重な財源により多額な資金を支援して建設されます。

施設や設備、医療機器等のハード面のみならず、建設時の市民開放や、他の病院にない特色ある診療、窓口体制の改善等、「市民の病院」、「地域の中核病院」として医療体制やサービス等ソフト面においても充実を図り、心の通う病院であってほしいと願います。特に「産科医」の確保については、近年社会的にも大きな問題となりつつあり、市からの支援の必要性があると考えます。

また、市として障害者の方や高齢者が安心して通院できるよう病院周辺の整備や交通網に配慮した人にやさしい街並みにご配慮をお願いいたします。

安曇野赤十字病院についての今後の検証は、経営審議会に委ねることとなりますが、第三者による経営等の検証を取り入れる中で、安定した病院経営ができますよう豊科地域審議会として切望しています。

